

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」や NPO 団体などを紹介します。

問 政策推進課 ☎82・3910/IP ☎88・9094

1 防災講演会と落語会の合同開催

上龍門地域まち協
大宇陀政始まち協

6月17日の午後、大宇陀上片岡にある日本教育学院高等学校において、2つのまち協合同による防災講演会と落語会を開催しました。この地域では、市営有償バス事業による「かぎろひバス」の運行を協同で実施していることから、今回の事業企画もスムーズに取り組むことができました。



防災講演会では、能登半島地震を含む主な地震被害の特徴などを示しながら「過去の災害から学ぼう！命の守り方」として、災害時の心得などを学びました。そのあと、ベンチャー落語家の参遊亭遊助さんの落語会。古典・現代落語や参加者の中から舞台上上がった小さい小唄もあり、高校の生徒の皆さんを含めた130人あまりの参加者は、愉快な話芸に大いに盛り上がりました。

今後、まち協合同開催により、お互いの住民が交流できる事業を検討していきます。

2 宇陀高校生と巡る、榛原まち歩き

榛原地区まち協

6月27日に、県立宇陀高校専攻科の授業に当まち協が協力しました。

市役所から出発し、宇陀川を渡り墨坂神社へ向かいます。コーディネーターは当まち協の田窪重昭顧問で宇陀高校の先生方やガイドの大西正門さんも一緒です。墨坂神社では太田豊文宮司に神社のいわれ等を説明してもらいました。参加した16人の生徒は留学生が多いため、参拝前の手水の使い方に興味をもったようでした。次に恵比須神社、伊勢本街道を通過して旧旅籠の「あぶらや」に行き、昔はお伊勢参りで大勢の旅人が行き交い、まちがにぎわっていたことなども知りとても驚いていました。

また、専攻科のフォトボイスという講座の勉強も兼ねており、まち歩きで感じたことを写真で発表してくるようです。今年度中に生徒たちの作品を市役所ふるさとテラスで展示予定です。



▲墨坂神社にて

3 水中の生物と蛍の観察

内牧地域まち協

今年、20周年を迎える「蛍の夕べ」が6月15日に千年大志会主催・内牧地域まち協共催で開催し、大阪府や京都府からの参加者を含む約500人が里山のイベントを楽しみました。会場の高井生活改善センター前では、焼きそばやタコ焼き、胡麻団子の店など多くの屋台でたいへんにぎわっていました。今年から矢谷川、内牧川での川遊びも再開し、たくさんの子



▲バーベキュー場も完備しています

4 イチヨウの広場からのお知らせ

田口地区まち協

室生田口元角川にあるイチヨウの広場オートキャンプ場では、アマゴのつかみ取り、河川では簡易釣り堀を期間限定(6月15日～11月30日までの毎日)で始めました。掴まえたアマゴはそのままキャンプ場で焼いて食べられる他、お持ち帰り(クーラーボックス必要)もできます。料金は、各1kg(10～12匹)で、4000円です。事前予約が必要となります。ひと夏

の思い出に、ぜひお越しください。
【お問い合わせ/予約】
☎090・1134・6411 (田中)
☎090・1588・6333 (北協)



ゲンノシヨウコ

ゲンノシヨウコは「現の証拠」という意味で、使用すると証拠のようによく効くことから名付けられました。また、葉の形からネコアシグサや、実がはじけ飛んだあとの果実の形が神輿のような形になるので、ミコシグサとも呼ばれています。

下痢で苦しんでいるときでも、便秘で苦しんでいるときでも、ゲンノシヨウコを煎じて飲めば改善できるので重

宝されています。効果は多岐にわたり、腹痛、下痢、便秘はもとより、食中毒をはじめ、生理不順、動脈硬化、高血圧、口内炎、扁桃炎、糖尿病、湿疹など万病に効きます。

葉と花を、低温でゆつくりあげて天ぷらにしたり、塩ゆでして水にさらし、細かく刻んでつくで煮にしても食べられるのも良いでしょう。プランターや鉢で栽培することをお勧めします。



※当市で「薬草活用講演会」をしていたいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075